



〈雜錄〉濠洲職工組合史 : Robert Schachner, Die soziale Frage in Australien und Neuseeland, 1911 ノ一節抄譯(2)

板垣, 茂末

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 14(2):317*-326

(Issue Date)

1913-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051987>



ニ對シテハ預金ノ合計及歩合ヲ與ヘザリシコト、及各種階級商人ノ預金歩合ヲ略セルテフ非難アリ。實ニ之ヲ省略セルタメニ起レル不便少カラズ。又一八九六年ノ調査ニ對シテハ、該調査ガ取引所受渡日ニ於テ行ハレタルコトヲ缺點トス蓋シ斯ル日ニ於テハ預金ハ、平日ヨリモ多數ノ信用券ヲ得ルモノトスレバナリ。

以上述ブル所ハ支拂ニ使用セラル、信用證券ノ數量ヲ調査スルニ用ヒラル、方法及調査ノ結果ニ關スル大要ニシテ、該調査ハ從來其方法宜シキヲ得ザルタメ未ダ充分ニ其目的ヲ貫徹セリトハ言フ可ラザルモ、調査ノ度數ヲ重ヌルニ至リ、漸ク其方法モ整ヒ從ツテ其結果モ較見ルベキモノナリ。殊ニ北米合衆國ニ於テ一九〇九年ニ行ヘルモノニ就キテハ頗ル參考トスベキ材料ヲ得タリ（一九〇九年ノ調査ニ就キテハ他日機ヲ得テ之ヲ論ゼントス）而シテ我國ニ於テ近來兌換券問題囂シキニモ拘ラズ、何レモ机上ノ空

論ニシテ數字の見地ニ立チテ之ヲ論ズルモノ少ナシ。又之ヲ數字のニ研究セントシテモ、其材料ノ存セザルハ甚ダ遺憾ナリ。乃チ英米ニ於ケル之ガ調査ノ狀況ヲ述ベテ、我國ニモ亦此種ノ正確ナル調査ノ行ハル、ヲ望ムモノナリ。

濠洲職工組合史（其二）

[Robert schachner, Die soziale Frage in Australien und Neuseeland, 1911ノ一節抄譯]

板垣茂末

二、州際團結運動

（千八百七十九年ヨリ千八百九十一年ニ至ル）

千八百七十九年ニシドニー市デ世界博覽會ガ開カレタノヲ機會トシテ、濠洲職工組合大會ガ同地ニ催サレタ。此第一回職工組合大會ニハ職工組合ノ代表者ノミナラズ勞働者共濟組合ヤ、八時間勞働制期成同盟會ノ代表者モ列席ヲ許サレタノデアル。集マツタ者ノ數ハ總計三十六人

デ、ニュー、サウス、ウエールスノ十八箇ノ組合
 サウス、アウストラリアノ二箇ノ組合、及ビ、
 新西蘭グイクトリア、竝ニクイーンズランドノ
 各一箇ノ組合ガ代表セラレテ居ルノデテル、ガ
 此中デウイクトリアノ組合ガ特ニ一人ノ代表者
 ヲ派遣シタノヲ除ケバ、他ハ總テシドニーニ居
 住シテ居ル組合員ヲ以テ之ニ充テタノニ過ギナ
 イ。又タスマニアノ組合カラハ單ニ賛同ノ意ヲ
 告ゲ來ツタニ止マル。

エドマンズハ此大會ニ臨ンデ次ノ如キ挨拶ヲ
 ナシテ居ル。曰ク「本會議ノ使命ハ南半球ヲ舉
 ゲテ労働者階級ノ配下ニ置カンコトヲ企圖スル
 ニアル」ト。

十月六日ヨリ同十三日ニ至ル間ノ此會議ニ於
 テ論ゼラレタ問題ハ頗ニ多岐ニ亘ツテ居ル。今
 左ニ其主ナルモノニ就テ述ベテ見ヤウ。

先ヅ第一ニ、組合運動ヲ有力ナラシメル爲メ
 ニハ何ヨリモ法律上ノ人格ヲ有ツタ職工組合ヲ

設立スルコトガ急務デアルト唱エラレタ、何故
 ナラバ之アツテ始メテ效果アル活動ガ爲シ得ラ
 ル、ノダカラ。

次ニ、時勢後レノ營業法規ニ對スル烈シイ非
 難ガアツタ。實ニ當時ノ法律ハ仕立業ニ於ケル
 殘酷ナル「スウエツチング、システム」ヲ認許シ
 又製靴仕事場ニ多數ノ職工ガ密集シテ不健全ナ
 狀態ニ陷ルノヲ取締ラズ、且又學齡兒童ノ労働
 ヲ禁ズルコトヲセズ、尙ホ蒸汽機關据付ノ監督
 ヤ、機關手ノ資格檢定ノ規程ヲ缺キ、加之過失
 ナクシテ遭遇シタル業務災厄ニ對スル賠償責任
 ヲ定メテ居ナカツタノデアアル。

海運業ニ關シテハ不堪航ノ狀態及ビ備船ノ濫
 用ニ對シ烈シイ攻撃ガ起リ、又鑛山業ニ關シテ
 モ甚ダシイ非難ガアツタ。

八時間労働制ハ茲ニ有力ナル擁護者ヲ得タ。
 人々ハニューキヤツスルノ鑛山ニ於テ尙ホ十四
 五時間モ働カサレル爲メニ坑夫ハ穴居ノ野蠻人

(underground savages) トナラザルヲ得ナカッタ
コトヤ、製造工業ニ於テモ頗ル長イ労働時間ガ
行ハレタコトヲ大ニ攻撃シテ、八時間労働ヲ法
定スルカ、ソレガ得ラレナケレバ少ナクトモ、
政府トノ雇傭契約ニ就テ之ヲ確保スルコト、又
或祭日ヲ期シテ全濠洲ヲ通ジテ之ガ示威運動ヲ
ナスコト、及ビ労働者ノ選舉シタ總テノ代議士
ヲシテ議會ニ於テ此要求ヲナサシムルコトヲ會
議ノ決議トシタノデアル。

次ニ、労働市場ノ調節ヲ計ル爲メニ政府ヲシ
テ移住ノ獎勵ヲ行ハシメヤウトノ要求ガ唱ヘラ
レタ。之ハ過剰ノ人口ヲ國外ニ移住セシメテ賃
銀ノ低落ヲ防止シヤウトイフノデアル。而シテ
又支那人ハ白人就中其婦人カラ洗濯業ヲ奪ヒ去
ルガ故ニ、彼等ノ上陸ヲ禁止シナケレバナラ
ヌト云ハレタ。

以上ノ各種ノ動機ハ總テ工業ヲ振興シテ労働
ノ機會ヲ多クシナケレバナラヌトイフ要求ヲ伴

ツタモノデアルカラ、一方デハホワイトガ保護
關稅政策ノ採用ヲ主張スルシ、他方デハ自由貿
易主義者ノハーヴエーハ獎勵金制度ヲ推舉シ、
ポットルハ尙ホ其外ニ特許法ヲ制定スルコトヤ
獨米ヲ模範トスル進歩シタ技術教育ヲ普及スル
コトヤ、政府ノ注文ニ就テ内國製造業者ノ優先
權ヲ認ムルコトヲ主張シタノデアル。而シテ之
ニ伴フテ普通教育モ亦兒童ヲ有爲ナル市民、敬
虔ナル基督教徒タラシメルコトニ今一層努力ス
ルヤウニ改革シナケレバナラヌト唱エラレタ。
最後ニ非常ナル期待ヲ以テ主張セラレタノハ生
產組合、販賣組合等ノ共同組合ノ設立デアツタ。
ウインハ之ニヨツテ社會組織ヲ全然改革シ、資
本ト労働トノ衝突ヲ全ク除去スルコトガ出來ル
ト思惟シタノデアル。以上ノ如キ商議ニヨツテ
濠洲社會運動史上ニ一新時代ガ開カレタ。職工
組合運動ガ濠洲全土ニ亘ル労働市場ノ編成及ビ
労働者階級全般ノ經濟上ノ地位ノ改善ニ其主力

ヲ集中スルニ至ツタノハ實ニ此時ニ始マルノデアル。斯テ年々職工組合大會ヲ催スコトガ決議セラレテ、翌千八百八十年ノ開催地トシテメルボルン市ガ選定セラレタ。併シ千八百八十四年ニ至ル迄大會ハ開カレナカツタノデアル。

此時代ニ濠洲ニ於テハシドニー（千八百七十九年）ヤメルボルン（千八百八十年）ノ世界博覽會ニ際シテ勞働者ノ間ニ團結思想ノ普及ヲ見、又多數ノ組合ハ其結合ヲ強固ナラシムルニ至ツタノデアル。

アラユル州ニ職業及勞働會議（*Trades and Labour Council*）ガ設立セラレテ、職工組合ハ之ヲ中心トシテ活動ヲ始メタ。又メルボルン市デハ車力、靴工、波止場人足、鐵道工夫、鞆皮工、車匠、「パン」焼人、僕婢、裁縫工、日雇人等ノ組合ガ一齊ニ起リ、「パン」焼人ヤ車匠ノ間ニハ八時間勞働制ノ實見ヲサエ見タノデアル。千八百八十四年ニメルボルン市デ職工組合大會ガ開カレタ

際ニ、同市ノ職業會議ニ屬スル組合ハ五十二上リ、其組合員ノ數ハ一萬ヲ數ヘタガ、尙ホ此外ニ八千人ノ坑夫ガ特別ノ組合ヲ組織シテ居タノデアル。ニュー、サウス、ウエールズニハ八千人ノ組合員ヲ有スル二十四箇ノ組合カラ成ルシドニー職業會議ガ存シタ。又サウス、アウストラリアノ職業會議ニハ三千人ノ組合員ヲ有スル十箇ノ組合ガ屬シテ居タ。而シテ是等ノ會議ニ屬スルモノ、外ニ尙ホ多數ノ組合ガ存シタコトハ確カデアル。

メルボルンノ此第二回大會ハ濠洲職工組合運動ノ性質上ニ一大變化ヲ齎シタ。濠洲ニ於ケル政治的勞働者運動ノ濫觴ハ正ニ此大會ニ發スルト云フモ過言デハナイ。シドニー大會ハ尙ホ未ダ地方的性質ヲ脱シ得ナカツタノデ、他州ノ組合カラハ眞實ノ代表者ヲ派遣シナカツタノデアル。而シテ今一ツメルボルン大會ガ前回ノト異ナル點ハ、明カニ職工組合タル性質ヲ具エタ勞

働者團體ノ代表者ノミガ集マツタコトデアル。

ヴィクトリアノ三十一箇ノ組合カラ四十九人
ニユー、サウス、ウエールスノ九箇ノ組合カラ十
三人、サウス、アウストラリアノ二箇ノ組合カ
ラ四人ノ代表者ガ列席シタノデアル。

シドニー大會デ論ゼラレタト同様ノ問題ガ又
此大會ノ議事日程ニ上ツタ。就中最モ著シカッ
タノハ仕立業ニ於ケル家内仕事ノ問題デアッ
タ。此家内仕事ニ據ツテ生計ヲ立テルニハ一日
十八時間ノ勞働ヲナスコトガ必要ダツタノデ、
之ニ従事スル多數ノ少女ハ過勞ノ爲メニ其身體
ガ衰ヘテ仕舞ヒ、從テ又彼等縫機ノ奴隸ノ生ム
ダ子供等ハ頗ル虛弱デ何事ニモ堪ヘズ、生レル
ヤ直ニ死シタ者ガ寧ロ幸運ダツタ位デアル。

支那人ヤ、アフガニスタン人ヤ、シリア人ガ
種々ノ職業ニ入り込シタノデ、當時濠洲勞働界
ハ頗ブル險惡ナ狀態ニ陥ツテ居タ。彼等ガ最初
ニ安イ勞働ヲ提供シテ競争ヲ試ミタノハ園藝及

ビ洗濯業デアル。而シテ又主ナル都市ノ郊外ニ
於ケル彼等ノ貧シイ特種部落デ出來合洋服業ヲ
經營シテ居タアフガニスタン人及ビシリア人ハ
同種族ノ女ガ非常ニ盲從性ニ富ンデ居ルノニ乘
ジテ之ヲ極メテ低イ賃銀デ使役シタ。ソレハ歐
洲人ニドツテハ勿論最低度ノ生計スラ支フルニ
足リナイモノデ、彼等自身トテモ其不徳ナ主人
ニ身ヲ任カスカ、サモナクバ醜業ヲ營マナケレ
バ到底生活シ得ナイ位ノ額デアツタ。此ノ様ナ
外國勞働者ガ工業條例ノ實施ヲ妨ゲタコトハ云
フ迄モナイコトデアルカラ、亞細亞人排斥ノ聲
ハ大會ニ於テ頗ル盛ンデアツタノデアル。

又佛領ニユー、カレドニアカラ移住シテ來ル
所ノ、極ク不都合ナ勞働條件ニモ満足シテ働イ
テタ、其生命ヲ繋グコトノミヲ志ス解放サレタ
因人モ、會議ノ問題トナツテ、佛國徒刑場廢止
ノ輿論ヲ喚起スル爲メニ英國ニ人ヲ派遣スルコ
トガ議決セラレタノデアル。

當時濠洲ニハ尙ホ英本國ノ舊時代ノ法律ノ一部分ガ施行セラレテ居テ、裁判官ハ勞働者ガ何等カ契約義務ノ履行ヲ怠ツタ場合ニ之ヲ牢獄ニ投ジ、任意ニ重イ勞役ヲ課スベキコトヲ命ゼラレタガ、雇主ノ義務ニ就テハ此様な刑罰的威嚇ガ定ラレテ居ナツカタノデアル。之ハ不合理ナコトデアルトイフノデ大會デハ此雇主及勞働者法(Masters and Servants Acts)ニ對スル反對決議ガナサレタ。此法律ニ對シテハ之ヨリ前ニタスマニアノ職工組合ガ不平ヲ唱ヘタコトガアル。尙ホ此法律ニハ外國カラ移住シテ來タ勞働者ニ對シテハ當初五箇年間ハ低イ賃銀率ヲ適用スルコトガ認メラレテ居タ。之ハ來住者ニ對シテ大ニ不公平デアアルノミナナラズ、濠洲勞働者ノ賃銀低落ノ危險ヲモ伴フモノデアツタノデアル。

次ニ又金ノ探掘ニ從事スル者ノ爲メニ、試掘ノ目的デ私有シテ居ル土地ノ所有權ヲバ政府ニ回收スベシトノ要求ガ提出セラレタ。人々ガ金

ヲ含ンデ居ルト考ヘラレル土地ヲ投機ノ目的ニ供スル爲メニ各所ニ所有シテ、試掘セントスル者ニ對シ多額ノ使用料ヲ請求シタノデ無資本ノモノハ全ク金ノ探掘ニ從事スルコトガ出來ナカツタノデアル。大會ノ報告書ノ編纂者ハ次ノ如ク云ツテ居ル。曰ク「何モノニモ増シテ濠洲ノ進歩ニ與ツテ力アル此金探掘業ノ發達ガ、少數者ノ私利私慾ノ爲メニ阻害セラル、トイフハ、眞ニ不合理ナコトデアル」ト。而シテ彼ハ又上院議員ガ投機者流ニ知人ヲ有スル爲メニ此經濟上ノ改革ニ對スル要求ニ反對シタノヲ大ニ攻撃シテ居ル。

職工組合ガ尙ホ未ダ其希望ヲバ政府ヲシテ實現セシムルコトガ出來ナイノハ、組合相互間ニ密接ナ關係ガ存シテ居ラヌノニ基クモノデアルト論ゼラレタ。當時坑夫同盟(Amalgamated Miners Association)ノ書記長デアツタ彼ノ有名ナル濠洲職工組合ノ首領スペンスモ之ニ論及シテ

次ノ様ナ言ヲナシタ。曰ク「職工組合ハ本來濠洲全土ヲ支配シ得ルモノデアルノダガ、今尙ホ之ガ實現ヲ見ナイノハ各組合ガ互ニ協力シナイノト、而シテ之ガ爲メニ未ダ其勢力ヲ自覺スルニ至ラナイノニ基因スル」ト。ダカラ今後ハ同一職業ニ屬スル總テノ職工組合ノ州際聯合ト、アラユル組合ノ團結トヲ作り、一ノ共同會議(Federal Council)ヲ設ケテ勞働者階級全般ノ利益ヲ保障シナケレバナラヌト論ゼラレタノデア

ル。
併シ一方ニハツレダケデハ不充分デアルト考ヘテ、勞働者固有ノ代議士ヲ選出シテ職工組合ガ政治ニ參與スベキコトヲ主張シタ者モアル。而シテ又代議士ガ選舉ノ當時ハ國民ノ代表者(peoples candidate)——勞働者ノ友(Working mens friend)デアルト自稱シ、且八時間勞働ノ法定ニ就テモ堅イ約束ヲシナガラ、議會ニ出テハ何等盡力スル所ナキニ對シテモ非難ノ聲ガ高カツ

タ。之ハ既ニシドニー大會ニ於テモ叫バレタコトデアル。

斯テ議會ニ勞働者ノ直接代表者ヲ選出スベシトノ重大ナ決議ヲ見ルニ至ツタ。而シテ之ハ議員ニ歳費ヲ給スルコトニヨツテ達シ得ラレデアラウト論ゼラレタノデア

ル。
併シナガラ此議會ニ代表者ヲ出スベシトノ決議ニ就テハ、人々ノ考ハ充分明瞭ニナツテ居ナカツタ、ノミナラズ之ハ餘リ大膽過ギルコトデアツタノデア

ル。實際當時ニ於テハ職工組合ハ未ダ其固有ノ代表議員ヲ選出スルカ獨立ノ政黨ノ編成ヲ企テ得ルトイフ程ニハ進ンデ居ナカツタノデア

常ナ歡迎ヲ受ケタコトハ、ヤガテ其後二箇月ヲ經テ「メルボルン市共同組合」(Equitable Co-operative Society in Melbourne)トナツテ現レタ一消費組合ノ設立ニ與ツテ大ニ力アツタノデアル。

政治上ニ勢力ヲ占メルノハ遠イ將來ノコトデアルガ、共同組合ヲ組織シヤウトイフコトハ手近ナ望ミデアルト考ヘラレタ。共同組合ハ資本ト勞力トニ同一ノ權利ヲ賦與スル。斯テ職工組合ガ漸次共同組合ニ變形セラレ行クナラバ、賃銀勞働者ノ理想ハ次第二達シ得ラレル。眞ニ共同組合ハ勞働者ヲ化シテ資本家タラシムルモノニ外ナラヌト論ゼラレタ。

此メルボルン大會ノ直接ノ影響ヲ受ケテ、木材工業、交通業、及ビ屠獸業ニ従事スル勞働者竝ニ波止場人夫ノ間ニ有力ナル組合ガ起リ、又同一職業ニ屬スル組合ノ同盟ガ出來タ。即チ、「ペンキ」工、鑄型工、理髮人、水夫、竝ニグイクトリア及ビニユー、サウス、ウエールスノ坑夫

等ノ組合ハ各同一職業ニ屬スルモノ、間ニ同盟ヲ結ンダノデアル。

次デ第三回濠洲職工組合ハ翌千八百八十五年再ビシドニー市ニ開カレタガ、集マツタ者ノ數モ前回ヨリハ少ナク、又別ニ目新シイ問題モナカツタヤウデアル。

濠洲大陸ノ事情右ノ如クデアツタ時ニ、新西蘭ニ於テハ第一回職工組合大會ガ千八百八十五年一月八日デユニデン市ニ催サレタ。而シテ此大會ハ頗ル重大ナ問題ヲ議シタノデアル。新西蘭職工組合運動ハ當時尙ホ頗ル幼稚デアツタカラ、此大會ニ代表者ヲ送ツタ組合ノ數モサホド澤山デハナカツタガ、其綱領ニハ新西蘭勞働者ノ偉大ナル自覺ガ示サレテ居ル。彼等ハ此自覺ヲ以テ彼等ノ階級ノ地位ヲ變更シヤウト企圖シタノデアル。以下少シク大會ノ議事ニ就テ述ベヤウ。

定期ニ開カルベキ大會ノ使命トシテ議定セラ

レタモノハ次ノ四項目デアル。

一、勞働者階級ノ組織改善ニ留意スルコト
二、勞働者階級ノ利害ニ關係スル總テノ事件
竝ニ其境遇ノ改善ニ必要ナル總テノ要求ニ
就テ細心ナル商議ヲ爲スコト

三、勞働者階級ノ境遇改善ノ企圖ハ成ルベク
法律制定ノ手段ニ據ルコト

四、新西蘭立法議會ニ勞働者ノ代表議員ヲ選
出センタメニアラユル手段ヲ講ズルコト

而シテ右ノ第一ト第四トハ頗ル密接ナ關係ヲ
有スルモノデアルコトガ指摘セラレタ。何故ナ
ラバ職工組合ノ組織ガ勞働者全般ニ行キワタツ
タ上デナケレバ、到底手工業ノ職人ヤ日傭人ガ
議會ニ出ルコトハ出來ナイカラ。而シテ又複數
投票權ノ廢止、投票時間ノ擴張、及ビ水夫代表
議員ノ創設ニヨツテ政治的勢力ノ確立ヲ容易ナ
ラシメ得ルトイフコトモ論ゼラレタノデアアル。
次ニ營業法規ニ對スル烈シイ非難ガアツタ。

當時ノ法律ハ早ク店ヲ閉ヅルコト(early closing)
ヤ、八時間勞働制ニ就テノ規定ヲ存セズ、又婦
女勞働ノ制限ヲナサズ、家内仕事ヤ「スウエツ
チング、ミステム」ノ禁止、及ビ工場ニ於ケル衛
生狀態ノ取締ヲ規定シナカツタノデアアル。而シ
テ規定シテ居ル事項モ其實施ハ全ク粗漏ナル職
業監督ニヨツテ等閑ニ附セラレテ居タカラ、職
業監督ニ關シテ年々議會ニ報告書ヲ提出スベキ
コトモ要求セラレタ。又雇主ト勞働者トノ間ノ
紛爭ヲ調停スル目的ヲ以テ仲裁裁判所ノ設立ガ
希望セラレタ。

水夫ガ荷物ノ船積ニ從事スルヲ禁ズルトイフ
頗ル狹量ナ獨占主義ニ基ク決議ガ通過シタガ、
之ハリツテルトン、ラムバース(波戶場人夫)ノ
要求ニ因ツタモノデアアル。又鐵道從業者ノ爲メ
ニ、其三日ノ休暇ヲ十四日ニ増加シ、且ツ全新西
蘭ヲ通ジテ其賃銀率ガ統一セラレテ居ルノヲ改
正シテ、各地方ノ慣習ニ從ツテソレ／＼異ツタ

賃銀ヲ支拂フベシトノ要求モ出デタノデアル。

最後ニ毎年全島ニ亘ル祭日ニ於テ八時間勞働制期成示威運動ヲナスベキコトガ決議セラレタ。

ベチシーバ此大會ニ於テアラユル外國品ニ對シテ最低二割ノ保護關稅ヲ課スベシト唱ヘタガ之ニ對シテ原料品ダケハ無稅トスベシトノ論ガアツタ。「自由貿易ハ勞働者階級ヲ餓死セシメタ」(Free Trade was starving the working class)トノキムバーノ言ハ滿堂ノ一致シテ認ムル所デアツタノデアル。

尙ホ新西蘭ノ工業ヲ振興スル爲メニ工業教育ヲ改良スベントイフ希望モ出タノデアル。

此大會ハ丁度アツキンソンノ率キル保守黨ガスタウト、フオーゲル等ノ民主的傾向ヲ帶ビタ政治家ト相爭フテ居タ政治界ノ波瀾期ニ際會シタ。スタウトハ大會ニ出席シタ。而シテ濠洲ノ大臣ノ如クニ、勞働者ニ對シプラトンのナ演說ヲ

爲スニ止マラナイデ、勞働時間ノ短縮・選舉制度ノ改善及ビ水夫ノ特別ノ希望ヲ實現スベキコトヲ約シタ。會衆ハ次ノ内閣ガ何人ノ手ニ落ツルカラ、玆ニ早クモ豫想スルコトガ出來タノデアル。保守黨代議士オールライトガ自分ハ勞働者階級ノ地位改善ノ方法ニ就テノ商議ニ與ランタメニ此會ニ臨ンダノデアル、此ノ如キ政治的集會ハ豫期シナカツタ所デアルト云ツタニ對シテハーバーガ答エテ「勞働者階級ノ利益ヲ政治問題カラ分離スルコトハ斷ジテ不可能デアル」ト明言シタ時ニ滿場ハ大ニ喝采シタ。

斯ノ如ク新西蘭ノ職工組合ハ早ク既ニ此第一回大會ニ於テ議會ニ其勢力ヲ扶植センコトヲ熱心ニ考量シ、而シテ數年ヲ出デズシテ此目的ヲ達シタノデアル。(本項未完)

正誤 前號一四五頁下段七行全クヨリ一四六頁上段十一行最初マデハ誤植ニツキ創除ス